

事例3

列車が接近している状況で、ダンプが踏切内に進入して列車と衝突し、炎上

概要：1両編成の急行列車（A 駅発 B 駅行き）の運転士は、平成 21 年 8 月 8 日（土）、速度約 65km/h で惰行運転中、本件踏切（第 4 種踏切道）の手前で、進行方向右側から本件踏切内に進入する普通貨物自動車（ダンプ）を認め、非常ブレーキを使用したが無間に合わず、列車はダンプに衝突し、ダンプを押した状態で、本件踏切を約 50m 行き過ぎて停止した。

ダンプは炎上し、列車の車体及び車内の運転室内機器等が焼損した。

列車には、乗客 16 名及び乗務員 2 名が乗車しており、このうち乗客 3 名が負傷した。また、ダンプには運転者のみが乗車しており、負傷した。

事故発生に至る経過

列車運転士

速度約 65km/h で惰行運転中、踏切の約 120m 手前で国道からダンプが進入してくるのが見えたので、気笛を 3 回くらい吹鳴した

（ダンプが）止まったなと思っていたら、列車が踏切の約 50m 手前にきたところで、ダンプが急に動き出してよろよろと踏切内に入ってきたので、直ちに非常ブレーキを使用するとともに気笛を吹鳴した

ダンプ運転者

本件踏切の直前では下り列車（A 駅発 B 駅行き）が見にくいので、国道から右折したところで A 駅方を見たら、列車は来ておらず、その後いったん止まってから本件踏切内に入った。本件踏切内に入る前に A 駅方を見ていたので、入るときには見ていなかった

入ったと同時に B 駅方にある踏切が「カンカン」と鳴ったので、上り列車が来るものと思い、危ない、早く出なくてはと思って、前輪が踏切の外に出たので、間に合ったなと思った

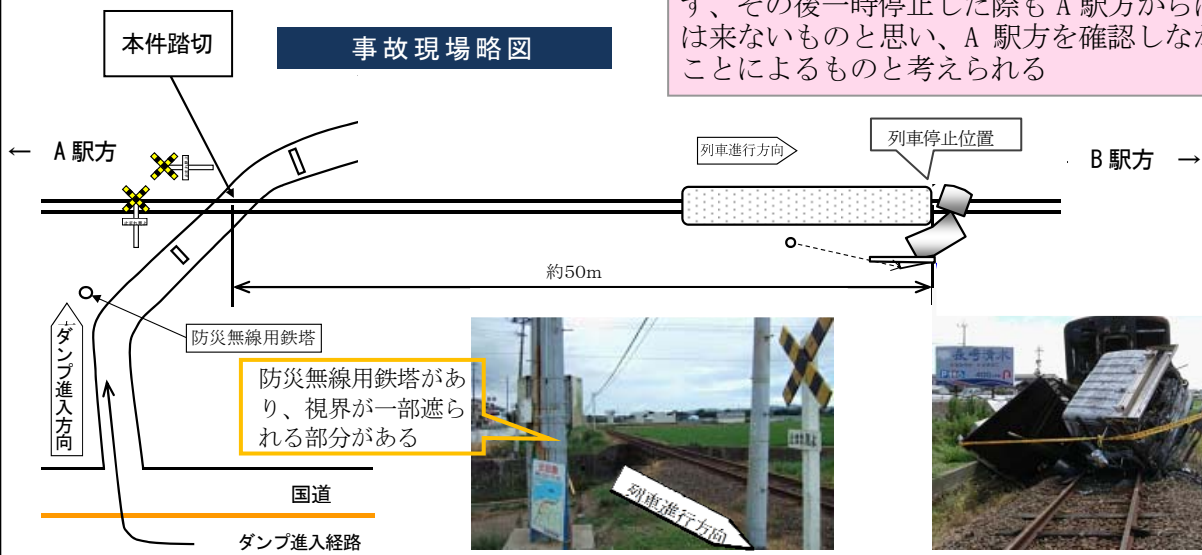
8 時 14 分ごろ

列車とダンプが衝突、炎上

乗客を後方に避難させて、後方左側乗降口から車掌と 2 人で乗客を降ろした

ダンプが本件踏切内に進入したことについては、ダンプ運転者は列車の存在に気付いておらず、その後一時停止した際も A 駅方からは列車は来ないものと思い、A 駅方を確認しなかったことによるものと考えられる

事故現場略図



道路側から見た A 駅方の見通し状況

火災鎮火後の列車とダンプの状況
(前方正面より)

再発防止に向けて

本件鉄道事業者は、本件踏切に対する踏切保安設備の設置工事（第 4 種踏切道から第 1 種踏切道への格上げ）に着手するとともに、次の措置を講じました。

- (1) 乗務員に対して、踏切道における注意喚起及び第 4 種踏切道については気笛吹鳴を指導
- (2) 踏切事故防止について、地元自治体の広報誌に掲載
- (3) 地元自治体での建て替え計画に併せて、防災無線用鉄塔の移設を依頼

本事例の調査報告書は当委員会ホームページで公表しております。(2010 年 3 月 26 日公表)

<http://www.mlit.go.jp/jtsb/railway/rep-acc/RA2010-2-1.pdf>